

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部

自己点検・評価実施報告書

<平成 24 年度~平成 26 年度>



広島大学大学院総合科学研究科評価委員会

目 次

はじめに

第1章 総合科学研究科・総合科学部の設立・理念・計画

第1節 設立	1
第2節 理念・目標	4
第3節 中期目標・中期計画	6

第2章 総合科学部における教育活動

第1節 学生の受入れ	9
第2節 教育の実施体制と成果	13
第3節 学生支援（留学・生活・就職など）	77

第3章 総合科学研究科における教育活動

第1節 学生の受入れ	81
第2節 教育の実施体制と成果	87
第3節 学生支援（留学・生活・就職など）	117

第4章 総合科学研究科の研究活動

第1節 21世紀科学プロジェクト群	120
第2節 領域	137

第5章 地域貢献・情報発信及び管理・運営

第1節 地域貢献・情報発信	146
第2節 管理・運営	149

補足資料	174
------	-----

あとがき

はじめに

ここに、平成 24 年度から平成 26 年度にわたる大学院総合科学研究科・総合科学部の教育研究並びに管理運営業務に関する自己点検・評価実施報告書を公表します。

学校教育法によって、大学は、教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設・設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表すると規定されています。3 年分の報告となりましたが、本学の第二期中期目標・中期計画に基づいて、大学院・学部教育や研究、管理運営等の自己点検 (PDCA サイクル) は行ってきており、今回は、自己点検結果とそのエビデンス及び改善のための指針を対照できるようにするという前回報告書(平成 21 年度～平成 23 年度)の形式を継承し、3 年間の期間で現状・根拠資料・今後の方針を盛り込む等の形で点検評価実施報告書を作成することとした次第です。

本研究科・本学部は、この 3 年間に様々な活動を行ってきましたが、特筆すべきは、平成 18 年度からとってきた総合科学部 10 教育プログラム体制を改め、平成 25 年度から「総合科学プログラム」教育プログラムを導入したことです。学際性・総合性への社会的ニーズに一層応えるため、過去の評価を踏まえ、教員間で議論を何度も重ね、人間・自然・社会の 3 つの教育領域からなる学士課程総合科学プログラムを開始しました。それは、平成 21 年の外部評価や卒業生アンケートの結果を踏まえた教育の現状の自己点検評価の帰結であり、改善への大きな転換点であり、本報告書の中にもその経緯が見て取れることと思います。また、大学院教育・研究においても、本研究科のユニークな特徴である 21 世紀科学プロジェクトを始め、各部門・領域での現状分析と評価の報告が記載されています。その他、社会貢献、管理運営、情報公開等、各種活動の軌跡が集約されています。

広島大学総合科学部は、学際・総合・創造性の旗印を掲げて 1974 年に創設され、学際的な学部教育を 40 年以上実施してきました。この実績を土台に、2006 年(平成 18 年)には大学院総合科学研究科を設置し、21 世紀社会が直面する複合的諸課題に取り組み、学際的・文理融合型の教育研究を推進してきました。東日本大震災から 5 年が経過した今日、既存の学問の境界を見直し、人文・社会・自然科学の対話と融合を行うことが益々重要になっています。本報告書が、本研究科・学部の今後の教育研究活動の改善に役立つよう期待しています。

本報告書作成にあたってご尽力いただきました関係各位、研究科評価委員会の方々、事務職員の方々に厚く謝意を表します。

平成 28 年 3 月

広島大学大学院総合科学研究科長
吉田 光演